

座談会

アダム・スミス旧蔵書の書誌と目録のこれまでとこれから

水田洋博士を囲んで

前言

本座談会は、東京大学経済学図書館が所蔵するアダム・スミス旧蔵書（「アダム・スミス文庫」）のデジタル化事業¹⁾をきっかけに組織された共同研究グループにより企画されたものである（「デジタル資源を活用した A・スミス経済思想の多元的学際的構造分析の新たな試み」挑戦的萌芽研究 26590031 代表 小野塚知二・東京大学大学院経済学研究科教授）。この共同研究では、デジタル・ヒューマニティーズの手法を活用したこのコレクションの新たなカタログを作成することを大きな柱の一つとしているが、その中で、スミスの蔵書目録作成の大先達である水田洋博士に助言を賜ることができないかという声が挙がった。幸い、水田博士からは趣旨を理解いただき、博士の高弟である安藤隆穂教授の協力も得て、2014年12月20日、名古屋大学理学部 B 館 5階 高等研究院・談話室にて、座談会という形で話を伺う機会を設けることができた。

座談会の開催に先立ち、共同研究メンバー内で質問内容を調整し、それを水田博士に予め提示したが、当日は、有江大介教授の司会のもと、高哲男教授、深貝保則教授というアダム・スミスの思想やデジタル化の動向に造詣の深い学者も加わり、和気藹々とした雰囲気のもと、闊達な議論が繰り広げられた。本共同研究におけるカタログ作成事業にも、様々な示唆をいただくことができた。

当時 95 歳の御高齢を押して参加くださった水田博士、会場を提供くださった名古屋大学の関係各位に感謝申し上げます。

座談会参加者（当時の所属・五十音順 *当日不参加で紙上のみの参加）

有江大介（横浜国立大学）、安藤隆穂（名古屋大学）、梅川佳子（名古屋大学）、大澤耕史（京都大学）、大塚雄太（名古屋大学）、小野塚知二（東京大学）、小島浩之（東京大学）、蔡大鵬（名古屋大学）、高哲男（九州産業大学）、*高橋裕史（苫小牧駒澤大学）、*野原慎司（東京大学）、深貝保則（横浜国立大学）、福田名津子（一橋大学）、森脇優紀（東京大学）、矢野正隆（東京大学）

はじめに

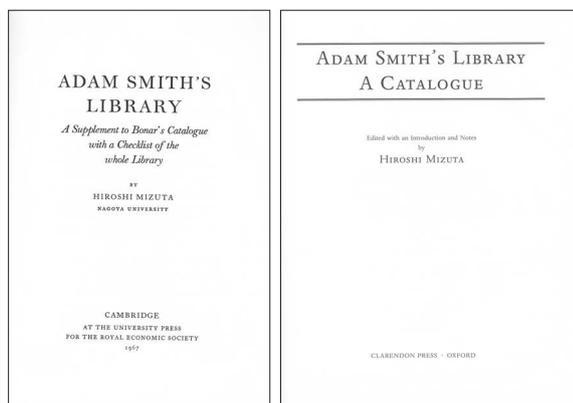
有江 本日は、特にカタログを中心に、水田洋先生になんでも聞いておこうということで、セッションを企画しました。それに先だって、皆さんからいくつか質問を受けておまして、それを私が整理・編集したものをお配りしてあります。すこし表現を修正してありますが、この順番

で一つ一つ読み上げる形で進めていきたいと思っています。

大きく分けると、まず水田先生が編纂されたアダム・スミス旧蔵書のカタログ（『水田カタログ』）についての部分、次に、東大の「アダム・スミス文庫」について、それから最後に、カタログから見た水田先生のスミス研究全般について、

というところまでお訊きできればと考えています。

なお、予め説明しておきますと、『水田カタログ』には、ボナー (James Bonar) が作成したアダムスミス旧蔵書目録第 2 版 (『ボナー・カタログ』)²⁾の補遺として 1967 年にケンブリッジ大学出版局より刊行されたもの (CUP 版)³⁾と、これを増補しスミスの著作における引用箇所なども加え、2000 年にオックスフォードより刊行されたもの (OUP 版)⁴⁾の 2 種類があります。『水田カタログ』とだけ言う場合には、この両者を含む場合もあるとご理解ください。



CUP 版扉

OUP 版扉

『水田カタログ』編纂のきっかけと経緯

有江 まず、小島さんからの質問で、「この目録を作成するにあたって、世界に散在するスミスの旧蔵書をどういった順番で調査したのか。そして、調査の際に作成した調書はどのようなものであったのか、何かご自分なりのフォーマットがあったのか。差し支えない限りでお教えいただきたい」という質問です。

水田 目録の謝辞のところをみてもらうと、「Professor Okochi」って書いてあるんだね。大河内先生が、僕に、スミス蔵書を点検する価値があるということを教えた、とそう書いてある。ただ、それは、先生から手紙か何かで、あなたがやりな

さいと言われた、というようなことではない。要するに、グラスゴーに留学 (1954-1955) している貧乏留学生が、大河内一男の来訪を受けて、「水田君、このボナーのカタログはおかしいですよ」って言われて、「じゃあ、やりましょうや」っていうくらいに始めたものなのです。実際にグラスゴーで現物を見てるから。それが、こういうことになっちゃったっていう感じです。

これは他でも書いたことですが、それをリストにして、まず『一橋論叢』に送ったら無視された。そこで、これをどうしようかと思っていたところに、小林昇が、福島大学の『商学論集』に載せたのです⁵⁾。その抜き刷りだか、書き直したものだかを幾つか、経緯は僕は分からないんだが、あちこちに送ったんですよ。そうしたら突然、スラッファ (Piero Sraffa) から手紙が来たわけ。スラッファはそのときマーシャル・ライブラリー (Marshall Library) のライブラリアンをしていて、それがきっかけで、彼の下で鍛えられることになったのです。最初は、ボナーのカタログを点検して、その revised edition を *Economic Journal* に出したらどうかっていう話になった⁶⁾。今の単行本 (CUP 版) のような形になったのは、のちのことです。

形式について、最終的に OUP 版でなぜあいう形にしたのか.....これはよく分かりません。自分の所に送ってくる古本屋のカタログを見て、こんな形があるんだろうというので、それで勉強したという、見習いみたいなものですね。

有江 最初どこから調べ始めたのですか？やはりグラスゴーから？

水田 グラスゴーから。ここに所蔵されているものについて、『ボナー・カタログ』と見合わせていくと、ボナーのやり方は、やはりかなり粗

っぽい、それはすぐに分かるのです。これは、ちゃんと統一したものにしなきゃいけないと思いました。

有江 小島さんの質問の続きで、「水田目録（OUP 版）の最終的なフォームについて、何を基準としてどのように決められたのか。何か参考とした目録等があったのかどうか。」

水田 やっぱり、いろんなものを見てきたということしか言えない。その頃は、クレスや、ゴールドスミス（Goldsmiths'-Kress Library of Economic Literature）も出ていたでしょう。だからいろいろ参考になるものはあって、そのうちのどれを捨ててどれを取るかっていうことは、自分で決めるしかない。だから、例えば「unlocated」だとか、ああいう表記も、そんなところからとってきたものです。仕事はエディンバラの図書館が多かったから、その人に聞いて、英語に間違いがないかどうかを確かめました。

有江 先ほど少し話が出ましたが、本日は来ることができなかった野原さんの質問で「大河内先生はなぜ調査を示唆されたのか。そして、先生ご自身での、スミスの蔵書カタログを作成しようというご動機は何であったのか？」

水田 そういう話ではなくて、たまたま会ったから、「これ、ちょっとおかしいですよ」って言うだけなんですよ。

有江 動機はなんであったのかっていうのも、じゃあ、そんなに深い話では...

水田 全然ない。そのときは、そもそも貧乏留学生でしょう。だから、そんなことできるとは思

ってない。このグラスゴー大学の図書館でやるだけはやっておこうという感じです。その次に、エディンバラの神学部に大量にあるとが分かったときから大変になる。

有江 次の質問は、やはり野原さんからで「カタログ作成のための調査はいつからいつまでなされたのか」

水田 ちょっとした点検、修正は、大河内さんに言われてすぐその場でもやれたから、やりました。それをリスト化して、福島大学に出したら、福島大学から配って、そしてスラッフアの手紙が来た。そこから始まったっていうことでしょうね。最初は、ブリカン（British Council）が少しお金をくれたのかな？

ミーク（Ronald L. Meek）に「イギリスに行って、それでスラッフアとやるんだ」と言ったら、「スラッフアに怒鳴られるんだぞ」って。大きな声で怒鳴るわけね。スラッフアは非常に神経質だけれども、親切にやる。だから、トリニティにスラッフアのゲストとして行ったときから始まったというふうに言えるかな。ただし、彼はあくまで『ボナー・カタログ』のサブリメントとして考えていた。そこで、Royal Economic Society 版（CUP 版）でスラッフアとしては一応、おしまいになった。それを広げるのは、どこからだろう。何を考えたのか知らないけど。

有江 OUP 版の出版は 2000 年ですけども、NUC（National Union Catalog）を参照したり所蔵場所を調査したりということ自体は、出版ギリギリまでやっていたと聞いています。僕は、以前、日本 18 世紀学会の『年報』で、そんなこと書いたんですけども⁷⁾、実際のところはどうだったのでしょうか。

水田 　　いつだったか、ダブリンまで校正を抱えてたことがありました。18世紀学会か何かのときだと思います⁸⁾。その時には、オックスフォード出版局に、「君たちの言葉なんだから、君たちが直せばいいじゃないか」って、そんなこと言ったら、フランス語知らない人がやったものだから、たくさん直しちゃって。本当にくたびれました。だから、それが一応打ち切りっていうことでしょうね。

有江 　　校正って、こんな分厚くて、重たいの。あれを抱えて行ったんですか？

水田 　　そう。

有江 　　私、なぜか水田さんの校正だといって、いただいたんですよ。2冊でこんなで(ぶ厚くて)、とても持ち歩く気になどなりません。だから今日は持ってこなかったんだけど。いや、それは大変ですね。

水田 　　その過程で、コンピューター問題っていうのが出てくるわけです。こっちでできるやつが向こうでは変換できないとか、いろんなことを言われて。それから、事もあろうに原稿が全部なくなっちゃった。どうしてかって言うと、掃除のおばさんが捨てちゃったって。OUPも資金が潤沢ではなかったし、データはあるから、こちらでやり直しました。今のようなコンピューターの環境ではなくて、大変素朴なワープロの段階なんですよ。そこに入っているのをコンピューターに入れる。こんな具合で、機械的な転換期だったから余計大変だったと思いますけれども、とにかくこれで切り抜けたということです。

有江 　　助手にあたるような人はいたんです

か？ 代わりに現物を見て確かめてこいとか言えるような。

水田 　　いや、駄目だ。エンジニアには無理だから、それは自分で行かなきゃ駄目。

有江 　　なるほど。

水田 　　同じ意味の単語でもフランス語と英語で綴りが違うことがある(たとえば *mariage* と *marriage*)。それで、スラッファに「これ違うが、誰かに頼めないか」と言われたので、「いや、駄目だ、俺が見に行く」と言った。ケンブリッジに見に行くのは大したことないんですがね。ケンブリッジからエディンバラまで見に行ったわけ。そうしたら、間違っていた。そんなことがありました。

有江 　　次の質問は「蔵書が確認されている全ての図書館に行き、現物確認をなされたのか？」というものです。

水田 　　まず、スミス自身のカタログ⁹⁾(『1781年カタログ』)を、矢内原忠雄のカタログ¹⁰⁾(以下『矢内原カタログ』)となったものと、NUCと対照するわけです。

所蔵しているらしいという所に行くわけですが、行ってみたら、「ここにはありません」と言われることもよくあった。カリフォルニアのどこかにシェイクスピアを持っているので有名な図書館があるので、そこに何かあるというから行ってみたら、残念ながら、そこにはなかった。その時は、帰るのにタクシーがなくて、しょうがない、トボトボと歩いてたら、止まった車が日本人の技術者、大工さんか何か、現地でやってる人で、そういう人に救われてホテルに帰ったというよ

うなこともありました。

もっとひどいのは、タクシーが途中でガソリン切れで、それでドライバーが「ガソリンを買ってくる」ってトボトボ出掛けて、バケツで買ってきたっていう、そういう日もありました。要するに、研究費がそれほど豊かじゃないから、旅費の制限があって、十分に研究ができたとは思いません。でも、何とかやり遂げた。そういう感じです。

有江 今の話で、旅費とか滞在費とかは、全部、科研費で出たわけではないのですね。

水田 全然駄目だよ。

有江 そうすると、先生ご自身がある程度資産を持っていたのですか？

水田 資産はないけれど、その頃は、幸いなことに、例えばさっき言ったダブリンの学会とか、何か学会に行くと、全部じゃないけれども、『エコノミスト』とか『朝日ジャーナル』から、「書いてください」って言われてね。それ（原稿料）で、かなりとは言えないけど、一応カバーできたということもありました。

福田 そうすると、長期休暇を利用して1カ月行くようなかたちですか？

水田 そんなものはない。

福田 でも、もう就職されてる頃ですよ？

水田 いや、そうじゃない。初めは...ちょっと待ってよ。いつ頃だろうな？ 分からなくなってきた。

小島 最初にグラスゴーに行かれたのは、確か昭和30年（1955年）前後ですよ？ 名古屋大学の助教授の時代に。

水田 そう。そのときは、そうだ。それから後は、やはり原稿。印税原稿料というのは、ないよりは良いという程度でしたけれども。だけど、それしかないわけですからね。

小島 就職されたあと、夏休みを活用したとか、そういうことはなかったですか。

水田 当時、どういう義務があったっけな。

有江 講義をしなきゃいけないんじゃないですか。あちこち行くのに、どうやって休みを取ったんだろう。

安藤 あの頃1970年代は、水田先生だけでなく皆さん、ずいぶん自由に休講されてましたよ。

水田 あれは楽だった。だんだん思い出してきた。

安藤 講義もゼミも本当に少なかったですよ。こんなこと言っちゃっていいのかな？ 僕が大学院に入った時は、たしか、4月の中旬に初めてゼミがあり、5月に一度挨拶を兼ねた報告をしました。ところが、その後のゼミの記憶がないのです。そうして、記憶が戻るのは翌年の2月のことで、先生がイギリスからお帰りになった直後久しぶりのゼミがあり、そこで、「おい、安藤。あんな報告じゃ駄目だよ」って、1年ぐらい前の報告について言われた、そんな時代でしたね。

福田 今の感覚で考えて、夏休みなんかにまとめて行かれたと思ったのですが。必ずしもそうではなく、合間を見て、何日間か行ったりされていたのですね。

有江 現在では、1週間以上外国に行くのなかなか大変な状態になってしまいました。

水田 僕もそう言われて、そんなことができたのかと思うけれども、実際にはやってみたいなんだよね。

福田 お弟子さんの証言もありました。

安藤 だから、大学院の講義は、予告時間割通りには、ほとんどやらなくても良かったんですよ？

水田 そうそう。

安藤 大学院については、海外から絵葉書を送ったりすることでも、講義したに等しいということだったと思います。学部の講義は、当時どうだったんですか？ 今と違って、半分くらいやっておけばよいというのが、当時の通例だったように記憶しています。

高 3分の1あればよくって、半分やってる人は立派ですよ。大学生は自分で勉強するものだって言われるから。「はい」とか言ってたんですよ。

有江 東大の大学院のある先生なんですけど、当時はまだ土曜日に授業があつて、わざわざ年度の初めに土曜の1限に入れる先生がいて。誰も来ないだろうと。そうすると、中には土曜の1

限でも履修したいと率先して来る学生さんがいて。それを呼び付けて、「君、大学院に入ってまで、人に習おうと思ってる？」と。そんなことを言った先生がいました。

安藤 それが普通だった。

有江 それが通ってたんですよ。僕らの時代までは、そんなので通ったところがあると思う。だから、とても今では考えられない時間の使い方だと思いますね。うらやましいな。

質問にもどります。「エディンバラ大学図書館を、どのように利用されたのか？」

水田 エディンバラの図書館は、神学部に、バナマン夫人 (Mrs. Bannerman)¹¹⁾の方から寄贈した分が、そっくり残ってるわけね。ただ、神学部だから全然関心がない。その館長のラムっていうのは、神学の博士でした。これ、どこかに書いてあるんだけど¹²⁾、学生が、スミスの大きな本を床に置いて踏み台に使った、それくらい、誰も関心がなかった。だから、僕が見たいと言っても図書館員が出してくれるわけじゃないんですよ。分類もできてないような状態で。

それで、カタログの中に、「エディンバラ大学神学部に保管してあるのは、一番悪い状態で置かれていた」と書いた¹³⁾。そうしたらその若い図書館員が、僕のことを「『ボナー・カタログ』をアウトオブデートにしている人だ」と言って、向こうも本気になり始めた。これまた大変なんだけども。それで、全部整理して、貴重書図書館も作って、そこに入れることになった。そこから、本格的に調査できるようになりました。それで、その人たちも僕が何を始めたかっていうのがだんだん分かってきて、それがずっと広まっていく。エディンバラの National Library of Scotland

で調査する頃になると、その Dr. ヒリヤード (Brian Hillyard) なんかが考慮してちゃんと場所を開けてくれるとか、だんだん楽になってきた。

有江 次、野原さんの質問「研究にどう役立ったか？」 スミス研究全体に、ということだと思います。

水田 「研究に」って言ったって、ここでやってる研究っていうのは、蔵書目録を作ることでしょう？ それ以外の研究っていうのは、どうだろう。いろんな所、図書館の貴重書室にだんだん顔が利くようになったっていうことですかね。

有江 次に、海外研究者との連携関係について。「OUP 版には、ピエロ・スラッファからの助言、ベルファストのブラック (Collison Black) とハーヴァード大学図書館のカーペンター (Kenneth E Carpenter) からの助言があったと記されている。助言はどのようなものだったのか？」

水田 スラッファとは、とにかく直接ですよ。ね。カタログの記載の仕方からはじめて。あとは、アイルランドのコリソン・ブラックね。アイルランドには、カニングダム夫人のほうから来た一つコレクションがあるわけで、ライブラリーに渡りを付けて、自由に見ることができるようにしてくれた。それと、宿泊の世話をしてくれたわけだ。ホテルに大学が持ってる部屋があるでしょう。そこを確保してくれる。

それからハーバードは、この本のこの部分はこっちにある、あとはあっちにあるというような、中の図書館の位置を案内してくれるとか。全体として蔵書の中身に関する助言は、あんまりないんじゃないかと思いますね。

有江 野原さんからやや細かい質問です。「『ボナー・カタログ』に所蔵されていないスミスの蔵書の調査にあたって、東大所蔵の『1781年カタログ』の他に、利用されたものはあるのか？」

水田 何もありません。

有江 「カニングダム所有分の『書籍競売目録 (1878年)』は、どの程度、役に立ったのか？」

水田 これ、僕は、探したことは覚えてるんだけど。たしか一橋の古典資料センターかどこかで触れてます¹⁴⁾。

高 でも、中身を見たとは書いてない。先生、これ見てないでしょう。だから、役に立ったかどうかっていうのは、ちょっと分からないですね。

水田 その間に、中央大学文学部の人が、「スミスの目録があります」と言ってきたんだが、実際はシム (Adam Sim) だった。シムの目録じゃ、スミスの蔵書は分かんないわけだから、「駄目だよ」って言った。

そういう古本屋のカタログは、エディンバラのパブリック・ライブラリーで随分探しました。それから、ブリティッシュ・ライブラリーのカタログや図書館業界の機関誌なんかを見た。結局、その辺りでは見つからないっていうのが僕の印象なんだけど。

有江 「カニングダム所有分の競売目録は、カニングダム蔵書分のうち、かなりを含んでいると推定可能なのか？」

水田 そうです。確か、それを購入したのがベルファストに残ってるわけだから、これで問題

ないんじゃない？

有江 「書籍競売目録に記された文献で、現在所在不明となっている文献も相当あるのか？」

水田 それはないんじゃないかな？

これは、ミス・カニンガムという人の、その頃の居場所を探し当ててくれた手紙です。ミス・カニンガムは、ジョージ三世に献呈した『国富論』を持っていた。

これを、どういう経緯で探すことになったか、僕には分かんないんだけど、あるとき、ウースターの辺りに住んでということが分かった。それを確かめるにはどうしたらいいかということ、バーミンガムの歴史、中世史をやったロドニー・ヒルトン (Rodney Howard Hilton) に聞いたわけ、「こういう場合に、あなたは中世史家として何をするか」って。まず、同僚に教えてもらってというのが一つ。もう一つ、彼は電話帳を全部探した。全部って、どのぐらいか知らないけれども。それで結局、居場所がわかって、ミス・カニンガムに僕は会いに行った。そうしたら驚いたことに、ミス・カニンガムは、スコット (William Robert Scott) — 『学生及び教授としてのスミス』¹⁵⁾を書いた人ですが—とつながりがあった。後任のマクフィー (Alec Lawrence Macfie) の代になったら、関係が切れたということで、僕がマクフィーに、「ここにいますよ」って教えて、大いに喜ばれたんだけど、そんなことがありました。

有江 野原さんの質問で「カニンガム蔵書分のスミス文庫は2度売却の機会があったが、その他にも売却の機会があったとの推定でいいか？」

水田 それ以上、何もないんじゃないの？

デジタル時代のスミス・カタログ

有江 「水田先生は1989年の時点で、「エディンバラ大学のバナマン蔵書が約1000点2000冊、カニンガム蔵書のうちベルファストと東大があわせて300点弱、500冊とすれば、残りは700点となり、その後確認されたもの（クレス、ゴールドスミス、ハツラー、グラスゴー大学など）が100点とすれば、不明は600点となる。この数字は、現在作成中のカタログができあがり、そのなかでバナマン（これは無傷のはずだから）蔵書が確認されれば、さらにはっきりしてくるだろう」¹⁶⁾とお書きになっている。水田カタログには、現代でも *unidentified* や *unlocated* と分類されている書籍が多数あるが、水田カタログの完成により、所在不明資料の相当数はゆくえがわかったのか？」「行方の分からない蔵書は、ネットの活用により、同定が、どの程度、可能だと思われるか？」

要するに、『水田カタログ』で所在不明資料の相当数が分かったが、まだ分からないものは、ネットなど活用で、今後どの程度見込みがあるのか。

水田 それはできると思います。僕が一番期待してるのは、そこなんですよね。

有江 今、ネットの話が出てきました。それに関連して、福田さんの質問で、「先生の構想に当初より含まれていたにも関わらず、実現できなかったことがあるのか？」

水田 これで精いっぱいのところだと思ったからじゃないの？ あんまり大望は抱かなかったという感じです。

有江 それから、その福田さんの質問に付け加えるということで、矢野さんのほうから、「現在のデジタル化された情報環境の下で、もし、これから新たに書誌を作成するならば、どのような形式、内容にすると良いか。考えることがあれば、ご教授願いたいと思います。」

水田 この資料(アダム・スミス蔵書)だったら、項目ごとに解説を付けることがいいだろうと思うけど。それは、さっきから、いろいろ議論も出てた、ああいうものを全部入れていくと、面白いと思う。

有江 『象』という雑誌の中で、「労多くして無駄が多かった」というようなことを書かれていました¹⁷⁾。その中身をもうちよっと知りたいなと思いました。

水田 何だろうな。こんなことをやっているのかと思ったこともあるしね。出来上がってみれば、これは使うことになるかもしれないと思ったけど、最初は、これで何の役に立つんだろう。途中で挫折するかもしれない。いろいろ思うところはありました。

有江 『水田カタログ』の日本向けの出版社広告の中で、研究というよりは道具だと。後の人間が、これを使って何とかせい、というようなことが、書かれていたと思いますが。

水田 それは啖呵を切ったわけ。所詮、これはツールだから、ツールであることを自覚してなきゃ困るわけで。

有江 最近、デジタルにどっぷりはまっておられる深貝さん、何か提言はないですか？

深貝 水田先生のカatalogのこのとおりのパッケージで、バーチャルなライブラリーを作れば、非常に意義があると思います。そうすれば、スミスが見ていたとおりのものが見れるかもしれません。

小島 書棚の形が見えるように。

水田 こういうスミスの蔵書のまとまりがあるが、その同時代には、周りにもっと広い書物のまとまりがある。それは、例えばスミスの友達の蔵書でもいいけれども、図書だけではなく、雑誌が全部あって、言論なんかも含めて、それが全部あるような幅の広い図書館があるといいな。そうすると、さっき議論になったようなことも、かなり分かってくる。

深貝 ECCO (Eighteenth Century Collection Online) だったら、見つかったものは全部入れているわけですね。それはベースにしたライブラリーにあるものを、ともかく集めて。それに対して、例えば、エディンバラなりグラスゴーなりの、当時の大学のコレクションから何か、突き止められるかもしれない。スミス以外の個人のコレクションも、同じようにカタログとして一望できるというだけでも、だいぶ違ってくる。スコットだったら、あの人脈では何が読まれる可能性が高かったかとか。そんなことが分かった上で研究しようっていう人が、どれくらい出てくるかは分からないんだけど。

有江 そう。「労多くして無駄が多い」かもしれないですね。でも思想史としては、同時代の中でのスミスの蔵書の位置付けとか、確かにできるかもしれない。

深貝 しばらく前に流行った、ケンブリッジの political thought のグループがやってたような、コンテキスト分析っていう。そういったものが役に立つんですね。

水田 そういうことね。ええ。

有江 でも、ECCO でも、実は、同時代の 20 パーセントぐらいしかカバーしてないと言われている。

結局、資料を探しだすと、どうしていいか分からなくなってしまいうぐらい出てくるわけだけでも、それでも、やっぱり一部分にすぎないということですね。労力や費用と、そのパフォーマンスや成果とを、どこでバランスとるのかっていうのは、非常に難しいです。方向性として、バーチャルライブラリーなんていうのは一つの方法としてあると思います。

水田 マッケンジー (Henry Mackenzie) が雑誌を出してるでしょう、*The Mirror* と、それから *The Lounger*。そういったものが全部でどのぐらいあるか知らないけど、その種の雑誌すべてを並べてみる事ができれば、もっといろんなことが分かってくるようになるわけ。だけど、きりがない。

有江 そうですね。エントロピーが増して、わけが分かんなくなっちゃう気もする。

さて、カタログに関する話に戻します。

小島 追加の質問ですが、目録調査のとき、偽物に会ったことがありますか？ アダム・スミスの蔵書票だけ貼り替えたとか、もしくは完全なフェイクとか。

水田 一度はあったような気がしますけれども、記憶が正確じゃありません。僕が「これは偽物だ」って言った覚えはあります。図書館の蔵書ではなく、本屋からの売り込みです。本屋の場合は、こちらも、初めから疑ってかかっているわけです。

有江 やっぱりブックプレートが貼ってあれば、当然高くなるわけですよ。

水田 そういえば、ブックプレートのある本が、この図書館 (名古屋大学附属図書館) にもあることが分かりました。この (『水田カタログ』OUP 版) 中にある、308 番、Newcome Cappe です。45 ページですね¹⁸⁾。

このパンフレットは、アメリカ革命に関する説教集ですが、僕が留学に行く前に、ヨークの古本屋のカタログで発見した¹⁹⁾。これは紀伊国屋がくれたカタログです。それを注文したんだけど、間に合わないから、諦めてた。ところが今度、永井義雄君の文庫 (永井文庫) を整理したら、ここにありましたっていう話²⁰⁾。

福田 それと知らずに、買ったわけですね？

水田 彼は非国教徒か何かのパンフレットを集めるので買っていたので、そんなものが付いているとは知らなかったようです。

同じような話はほかにもあります。大淵利男っていう、日本大学で財政学か財政史かを教えた人がいます。それが個人として持ってた。それが亡くなったあと、日本大学の法制史をやっている人が、僕にホップズのことで質問してきたときに、あ、これだと思って、「大淵さんの蔵書に、どんなものがあるか調べてください」って言ったら、息子の三洋っていうのかな、彼が早速心得

ていて、「父が亡くなったあと、法学部図書館に入れました」と言っている。だから、所在の変更です。これ、何だったっけな。

小島 『水田カタログ』の 695 ですね。105 頁。ジョージ・ゴードン²¹⁾。これはこの秋に、日本大学法学部の創設記念展示会で出陳されたようです²²⁾。私は行けなかったのですが。

それから、『水田カタログ』が出た後に、東大経済で 1 冊買っています。Jacques-Benigne Winslow の *Exposition Anatomique de la Structure du Corps humain* で、『水田カタログ』にはないものです。詳しくは大河内暁男先生が解説を書かれています²³⁾。

その後、売り込みが 2 回くらいありましたが、それは買ってないので、所蔵がどうなったかはわかりません²⁴⁾。

東大「アダム・スミス文庫」について

有江 次に東大の「スミス・文庫」についてという項目に移ります。まず小島さんからの質問で、「東大のアダム・スミス旧蔵書を初めて実見したのは、いつのことか。また、東大のアダム・スミス文庫の調査経緯をご記憶ならば、教えてほしい」ということです。

水田 いや、全然。留学の前に、「アダム・スミスの会」ができたというところから始まるわけですね。そのときに、そういうものがあるぞというくらいのところだから、とても。

有江 それに関連して、「昭和 30 年(1955 年)前後に東大のアダム・スミス文庫は大修理を行っているが、その頃のこと何か聞いたことはあるか。また、東大側から、これまでアダム・スミス文庫の保存や活用について、水田先生にご

相談があったことはあるか。」

水田 多分、何も知らないと思います。『矢内原カタログ』を作った田添(京二)との交流はずっとあったわけだ。だから、雑談で、いろんなことを聞かれたことは、当然あったと思うけれども、何か正式にどうのこうのっていうことはないと思います。

『1781 年カタログ』について

有江 次に、ちょっと視点が変わって、「東大のアダム・スミス文庫に含まれる 1781 年のスミス蔵書目録について、水田先生として、その意味や課題など、何かお考えのことがあればお聞かせいただきたい。」

これは野原さんの質問事項にも関わっているもので、併せていきますと、「1781 年のカタログを用いた同定作業はどのように行われたのか。British Library のカタログと、National Union Catalog (NUC)をどのように用いたのか。」

それから、「この『1781 年カタログ』は、コピーがボナーに渡っているはずであるが、結局、『ボナー・カタログ』には反映されなかった。かつ、1995 年にはファクシミリコピーが出ている。スコットも言及しているにも関わらず、欧米の研究者は、この『1781 年カタログ』を用いているのを、寡聞にしてあまり目にしたことがない。欧米の研究者は、このカタログを、どの程度、実際手にしているのでしょうか。英語で出版はされたが、流通ルートには乗らず、結果として、欧米の研究者はほとんど手にできていない可能性はあるだろうか？」

水田 全然無視されてるという理解で、いいんじゃないかな？

有江 見てないから結果として無視なのか、それとも、見ても特に利用されてないのか。

水田 そうね....

有江 「欧米の正規の流通ルートに乗る出版社を通じて、再販する価値はあるだろうか？」

水田 どうだろうな？

有江 「この『1781年カタログ』の特徴と意義を、どのように思われるか。このカタログから見えてくるスミス像は、どのようなものか。」

水田 自分で考えてください。.....

さっき質問で、NUCを一番よく使ったっていうのは、これは間違いないわけです。日本でそれを持つてる図書館っていうのは、その当時、そんなにたくさんなかったが、幸い名古屋には全部あったから、それを使った。

British Libraryのカタログっていうのは、その当時、出てなかったんじゃないの？ それは使えなかったんじゃないかな。もちろん、そこに行って調べたことはありますけどね。

有江 小島さんの質問で「スミス旧蔵書に見られる書き入れについて、スミスのものでないとすれば、誰のものか。スミス入手以前のものか、それとも後人のものなのか。」

野原さんからは、「先般来日した、ベンサム・プロジェクトのフィリップ・スコフィールド教授は、この筆跡はスミスのものではないこと、そして少なくとも、その書き込みの一部は non-native speaker によるものと推測されるとした。native speaker が書き込みを行い得るとすれば、どのタイミングだったか？」それから、「新渡戸

が日本に持ち帰った後、戦後しばらくまで、蔵書は書き込み可能な状態であったのだろうか？それとも19世紀の書き込みと推測されるのであろうか？」と、細かい質問になっていますが。書き込みに関しては、何か。

水田 僕は大体見たつもりだが、そんなにたくさんあるかな。例えば、ガセンディ (Pierre Gassendi) の研究者から、「おまえがやってるスミス蔵書の中にあるガセンディに、書き込みがあるかどうか調べてくれ」と言われて、幾つか調べた。しかし、そうやって調べて何かがあったっていうことは、全然ありません。そういう調子だから、全体としても、あまり有効ではないんじゃないか。それから、「戦後しばらく蔵書は書き込みが可能であったか」なんて.....そういうのに書き込みする日本人はいません。

小島 東大では、アダム・スミス文庫だけは特別だったということで、関東大震災の後も、他の本はどうなったか、記録が全く残ってないんですが、アダム・スミス文庫だけは、救ったという記録が、きちんと残っています²⁵⁾。戦前は学部長室の奥深くに、しまわれていたということなので、誰かが書き入れるということは、まずないと思われます。

水田 まず、考えられないね。

深貝 考古学だったら炭素の測定とか何とかやるけど、200年ぐらいだと無理です。

小島 無理ですね。新しすぎますし、スパンが短いです。

有江 ちょっと無理かな。インクの分析は、多

少はできるかもしれない。

深貝 後は、世界中に散らばってる、スミスの持ってた本の書き込みを全部突き合わせて、筆跡を分析していくとかね。

福田 それは、技術的には、コンピュータでできますよね。

小島 スミスが古本屋から買ったということはないですか？

水田 スミスと同時代のグラスゴーで、Academy of Art をやっていた書店 (Foulis Press) が、大陸から本を入れて、カタログを回覧していた。それで、そのカタログが、Mitchell Library に1つだけ残っている²⁶⁾。内容は、大体古典です。そこからスミスが買ったかどうかということは、いろいろ探せば、すぐ出てくるだろうと思う。

例えば、今度 (名古屋大学レクチャー) のポスター²⁷⁾に出ているリプシウスの『政治学』²⁸⁾、ああいうのは、恐らくベストセラーの一つ。要するに、ネオ・ストイシズムのリプシウスの代表作だから、あれが掘り出されれば (スミスも) 買うだろうと、そんなことは言えるけれども、もう少し具体的にいかないと、何を買ったっていうのを調べるのは無理かもしれない。それで、Mitchell Library にそういうことを調べようとしてるおばさんがいたんだけど、残念ながら既に亡くなった。「もっと、ちゃんとしたものをやりたい」って言ってたけどね。

だから、Mitchell Library っていうのは調べる値打ちがあるかもしれない。グラスゴー市立図書館かな？ 一番古い図書館。

高 今、予算を削られて、ひどいありさまに

なってますね。

文学書の収集について

有江 もう一つ野原さんから、「東大のスミス文庫には、タッソ『エルサレム解放』や、アリオスト『狂えるオルランド』のような叙事詩が多い。かつ、イタリア詩を大量に収集している。ヴェニスの歴史書もある。言うまでもなく、羊皮紙に書かれたヴェニスの Statutes もある。通常の道德哲学者・経済学者スミスという、スミス像からは見えてこない、これらスミス蔵書の傾向については、どのように思われるか。イタリアへの関心は、ルネサンス人文主義へのスミスの関心を示すのか？」という質問ですね。

水田 そんなに多いかな？

小島 東大に残っているものについて言えば、言語別に見ると、意外とイタリア語が多いということです。これは、東大にもたらされたものかどういふものかということに関わるので。

小野塚 これまでの研究では、アダム・スミスが、そういうイタリアの詩や文芸、あと大陸の戯曲ですとか、そういったものを自分の研究にどういふふうに使ったのかっていう話は、あまり出てきませんよね？

高 でも、それは、言語論とかモラル・センチメントには、結構出てきます。彼は、要するにセンチメント、感情が基礎だってやるわけだから、当然、文学と詩が入っている。水田先生は、賛成だと思うんだけどね。

僕は岡山の羽鳥 (卓也) さんと親しかった。彼は思想はやらないから、「いや、スミスはですね、やっぱり思想だと思うんですよ」って話を、僕は

よくしてたんです。そっちが人間の本当のところ。

小野塚 なるほど。思想の材料としてそういうものが入るのですね。

高 『資本論』とか『国富論』は功利主義でも理解できる。要するに金持ちや商人が金もうけしようとするのに対して、それは多少、制約しなければならんという。僕は、そういう本だというふうに考えてますね。

だから、これ（文芸）は、非常に重要だと思いますよ。ただ、僕らが読めないし、その辺の問題はあるんですけど。

小野塚 僕はかつて、アダム・スミスみたいな知的な人物ではないですけども、この時代、18世紀の、技術者とか職人さんのことを、随分調べたことがあります。彼らは、やたらとイタリアやフランスで出された技術書を買まくってるんですね。けど彼らは、多分、徒弟修業しか経てないので、ラテン語やイタリア語やフランス語が、そうそう読めたとは思えない。どうも18世紀のイギリス、イングランドでもスコットランドでも、大陸の書物を買うこと、あるいは所蔵していることが、何か一つの知的水準って言うのか、知的ステータスを示すような、そんな役割を果たしていたのかなというふうなことも考えたことがあるのですが、どうでしょう？

深貝 そういう本って挿絵がありますか？文字だけでしょうか？

小野塚 挿絵のあるものもあるけれど、文字だけのもあります。

深貝 挿絵があれば、読めないとしても、単に飾りとして意味がある可能性はありますね。

小野塚 自分の自伝に書くんです。自分はこうやってフランスやイタリアの本を買って、技術の勉強をしたとかっていうのを、誇らしげに書いている。

高 それって、ひょっとすると、ユグノーとか、イギリスに流れてきた人たちですか？

小野塚 いいえ。その人たちはイギリスやスコットランドで生まれた、普通の職人さん。ユグノーではありません。だから18世紀だと、まだ大陸の文化、学問、科学に対する尊敬心が非常に強いというような、そういうことはありませんか？

高 18世紀も20年代になると、イギリスも相当発展していて、一番進んでいるところでしょう。だから、そのへんは難しい所ですね。スミスは1720年でガラッと変わったと書いている。

深貝 それは技術的にどうかよりも、貴族のグランドツアーの場合と同じように書籍を調度品として収集した人たちもいたでしょう。だから、並べて部屋に置いておくっていうのはあり得ると思いますね。

小野塚 スミスは、そういう飾りの本を買う財力っていうのはあったのでしょうか。

水田 それはあったと思う。

高 そういうふうに自分で書いてるじゃないですか。かなり金はあったはずで、相当買って

いる。彼の手紙を読むと、大陸とロンドンを旅行した後、本を4箱船で送ったとある。昔読んだ本も、後で集めていった。

水田 オペラに行ったのを、全部記録を取ってあるし。

高 ラモーの音楽論なんかもある。僕はラモーの音楽は知ってるけど、書いたものはよく知らないんですが。そういうのがあるくらい、関心の広い人で、かなり読んでるのは確かだろうと思いますね。

有江 なるほど。高さんの言われるように、センチメントを重視するから...

高 絶対要るんです。芸術とか文学とか詩はね。

有江 と同時に、ファッションで並べるところ。極論すれば、二つあるような気がします。どっちだろう。でも両方とも、あり得る話。

水田 だから、これは、通常の「道德哲学者・経済学者・スミス」なんていう見方をやめてしまえば、話は分かるわけだよね。

深貝 文化人だから。

製本について

小島 本の購入については、いろいろ書かれているようですが、製本については、どうですか？ 今残ってるスミスの蔵書製本は、新しいものも含まれているように思えますが、いつ頃のものでしょうか。誰もその辺りは言及していない気がします。普通は革装ではないものを買

って、自分で製本しますよね。もちろん古本屋から買えば、前の所有者が製本してたものということになるでしょうけれども。蔵書家というのは、結構、製本にこだわる人もいたりしますが、スミスはどうですか？

水田 僕は、むしろ、そのことをスミスは言ってるんじゃないかと思ってる。「自分は蔵書についてだけは beau だ」と言ったときに²⁹⁾、製本についても、こだわりがあったんじゃないかと思ってる。

高 モラル・センチメント(『道德感情論』)を寄贈するときは、ある所に頼んで、きれいに革でやっていますからね。だから当然、(製本屋と)付き合いがあったと思います。

小島 本を所有するという事は、製本まで自分でおこなうという前提なんですか。

高 原則は、おっしゃるように、八折か何かで出てくるわけだから。それは面白い比較かもしれないですね。製本技術からたどっていくと、かなり分かる可能性がある。今まで考えたことなかったですね。

小島 今、そのテーマで科研を申請しています。もし取れましたらご協力をお願いします。

高 それは面白いと思います。

小野塚 物としての本に注目して、いろいろなことを調べる。

高 スミスのモラル・センチメントの5版が手に入った。これ、古くて壊れそうだから、製

本し直そうかとどうしようかと考えている。傷んでるのを、直すべきか、直さざるべきか。難しいですね。だけど、その製本の歴史をたどっていくと、何かあるかもしれませんね。面白いな。この辺は全然、学者がアプローチしてない。

有江 コンテンツというよりは、物としての本というところから見ると、なにか欠落を埋められるかもしれませんね。

『矢内原カタログ』について

有江 これも主に野原さんが言及してますが、水田先生は、「1944年に亡くなった河合栄治郎はともかくとして、61年に亡くなった矢内原忠雄とは、個人的面識はあったのか。」

水田 それはありました。矢内原さんの秘書が、田添夫人だったのかな。これは「個人的面識」の中に入れていかどうか知らないけど、息子の矢内原^{かつ}勝君と僕はブリカンの同期でした。我々が出発するときに、東京駅に矢内原先生が見送りに来て、僕に「あの勝は全くの子どもですからよろしく」と言った。彼はもう30歳の慶應の助教授ですよ。ひどいこと言うなと思ったけど、しょうがないから「承知しました」と言いました。

ブリカンは、われわれ2人に半年ずつ延期を認めてくれた。2人とも1年ということになると、イギリスの財政も厳しいから、10月から6月まで。夏休みなんかくれないわけですよ。

それが終わるときに、矢内原は（専門が）植民政策だから、アフリカに行くべきか迷ってる。それで「俺は、おまえのおやじから監督の責任を受けてる。アフリカに行け」って言ったの。そうしたら、当時のアフリカは大変でね、よほど金を払わないといいホテルはない。だから、勝は鉄道の

駅に寝たりなんかしたんだって。それで、矢内原先生が勝君を迎えに行ったとき、「これがわが子かと思うぐらい、痩せてた」という話でした。

その後の勝君は、ちょっと悲劇だったんだけど、せっかく仕上げた本を出版ができなかったんじゃないかな。憤懣のうちに急病で死んじゃった（2003年）。..... だから矢内原先生とは、その程度の関係です。そして今は、先生が作った「アダム・スミスの会」を、大河内（一男）、小林（昇）の後で、僕が引き継いでる。

有江 最近、東大出版会から、南原、矢内原に関する本が、何冊か出ているんですが、無教会派の関係の視点でのまとめが結構あります。その辺、水田先生としては何か感じたことはないでしょうか？ カタログの話とずれてしまって、申し訳ないんですけど。

水田 僕はもともと無神論だから、つながらないですよ。何か話をしたということもありません。

有江 それから、野原さんが、水田先生の文章を引用しています。「矢内原目録が、その後半に、1781年目録を収録したとき、ボナー目録との対照は一応行われたけれども、それは、スミス目録の諸項目がボナーに収録されていることを示しただけで、その対応関係の指摘でさえも、やらないほうがよかったくらい不完全であった。例えば、『ジェリーまたは新エロイズ』がボナー目録のルソーの項に副題の『ふたりの恋人の手紙』として収録されていることが無視され、『世故の人』がボナーのマケンジーの項に収録されていることが無視されているという調子である。そのうえ、じっさいにボナーにないものは、同定されなかった」³⁰⁾という水田先生の文章ですが、

「この点についてもう少しご説明願いたい」ということです。

水田 何なの？ 説明の必要はないじゃない。そのとき、全体は田添がやったんだけど、そういうことを発見した。あの田添っていうのは、あの頃にしては珍しく、経済学者にしてパイオリンも弾くというような男だったから、教養については、多少期待してたんです。だけど、田添がやってこの程度かと、がっかりしたことはあります。

有江 野原さんより「全般的に矢内原カタログの不完全な点についてお気づきになった点をご忌憚なくご教示願いたい」と。

水田 その当時、指摘したとおりです。ここで *Nouvelle Héloïse* が見逃されたっていうのは、その当時の日本の思想研究の水準を非常によく表していると、このときは思いました。これじゃ駄目だなと思った。もちろん自分も含んでですよ。

小島 こちらにある資料の中に、『矢内原カタログ』ができるまでの、何段階かのノートがあります。どなたの字なのか分からないのですが、いま先生がおっしゃった田添先生の字なのでしょうか？

水田 田添君が一番考えられますね。久留島陽三君は、もう岡山に行ってたろうから。2人が大河内門下でアダム・スミスのことをやってた。

小野塚 先生はそのノートをご覧になれば、どなたの字かは分かりますか？

水田 無理。

小島 全部きれいな筆記体でしたね。

高 田添さんが亡くなってから、そんなにならないかな、ご遺族に見せれば同定できるのでは？ 奥さんは亡くなったけど、お子さんはいらっしゃる。

水田 僕は、息子に会ったことがある。「ああ似てる似てる」なんて言って。

小島 田添先生が亡くなったのは3、4年前ですよね（2009年）。矢内原先生の字なのかと調べていました。

水田 田添が書いてきた葉書は、どこ行ったかな？

深貝 矢内原のノートって、何か残ってないんですか？

小島 琉球大に残っていて、デジタル公開されてますので、それと対照してみます。

有江 僕も田添さんに1回手紙もらったのが、どこかにある。

高 田添さんとは電話で1時間ぐらい話したけど、字は知らない。

蔵書から見えるスミス像

有江 一般的な話に移っていくんですけども、これも野原さんの質問で「新しくカタログを作るとしたら、その意義は何か？ 注意すべき点はあるか？」それから、「スミス蔵書から見え

てくるスミス像については、『水田カタログ』で、その研究の重要性が指摘されている。ただ、現代の欧米の研究者は、『水田カタログ』をたびたび使うのにもかかわらず、スミス蔵書から見えてくるスミス像、それ自体についての研究が進んでいるように思わない。」

水田 「たびたび使ってる」の？ 僕、これは疑問だと思う。

高 僕が見る限り、きっちり書誌データまで当たる人は、水田を見ようって、やっぱり出てきますよ。ただ、どう使うかは、使う人次第。

有江 書誌データまで含めて、あるいは扉に載ったタイトルを見るとか、そこまでやってるとは思えない。

深貝 スミスが何を読んでそういうことを言ってるか、というときに、カタログをレファラーするだけでは、本当にレファラーしたことにはならない。その先に、現物に当たって、本格的な解釈ができないと。

有江 だから、グラスゴー版(全集)ぐらいまで見てれば大したものというくらいです。『経済学史研究』に書いたけれど³¹⁾、去年のソルボンヌの18世紀スコットランド学会・国際アダム・スミス学会のアマーティア・セン(Amartya Sen)とか、スミスに関わる報告を聞いた印象は、せいぜいグラスゴー版止まりで、しかも読むるのは、ほとんど『国富論』『道徳感情論』とそこに付いた注くらい。そこから、もっと掘り下げようという感じではない。センなんかは、自分がこのテキストをどう読んで、そこから何を引っ張り出せるか、という関心だけです。

高 でも、それでいいんじゃないの？ センって、学史研究じゃないもん。

有江 センに対しては、スミスはそんなことは言っていないとか、そういう解釈は無理だとか、批判が出てくるわけだけれど、センとしては、本当はスミスが何を考えているのか、そんなことは分かるわけがないから、テキストとして読んで、スミスの視点を自分なりに取り出して、新たなグランド・セオリーを作る、みたいな答えをしていたようです。そういう読み方だった。

水田 イアン・ロスが『アダム・スミス伝』の2版を出したでしょう³²⁾。あの中に、スミスがオックスフォードでヒュームを読んで、処罰されたっていう話がある³³⁾。あれ、どこから出てきたかということ、新しいビブリオグラフで分かった。それは、スミスの甥(David Douglas)の家庭教師をしていた数学者(John Leslie)の書いたものなんだが、彼は晩年のスミスの側近だった。それで「自分はあそこで処罰されたんだ」とスミスが言ったのを聞いたと。スミスの追悼論文集の書評で、そういうことを言ってる³⁴⁾。これは、僕の*Adam Smith : Critical Responses*にある³⁵⁾。

だから、ビブリオでそこまでたどっていくことはできるわけだ。そのくらいの利用はできるかと思う。ロスがスミス伝の2版をわざわざ作ったのは、その事実を発見したこともあるのかもしれない。やっぱり彼らは(『水田カタログ』を)よく使ってると思います。

有江 「東大のスミス蔵書から見えてくるスミス像の研究に、意義があると思われるか？」という質問は...

高 それは、意義があるか分からんが。本人

の力量だよ。

深貝 たまたま東大にあるのものだけを使うのでは、あまり意味はない。スミスが思った全体と突き合わせることであったら、意味が出てくると思う。

スミスの関心領域

高 しかし勝手に読んでやるというのも、この時代では必要だと思いますね。勝手に読むためには、この『水田カタログ』がありさえすればよいので、東大のコレクションからどう読もうと自由だと思う。先生を前にして言っちゃまずいんだけど、カタログから中身が出るはずがない。だけど、カタログは、中身を出していったときの、直接的ではないけれど、証拠になっていくんですよね。だから、仮説を展開していくときには、かなり役に立ちます。それから、無理筋を追わないようにするには、カタログが絶対要りますよね。

僕がよく使うのは、そこなんです。ある本がスミス・カタログに入っていない。そうしたら、それは、いったん横に置いておく。いっぽうで、スミスは、アディソン（Joseph Addison）なんて読んでいます。なんで読んだんだ？って、先生、思われませんか？ 僕、全部洗ってるんですよ、いっぱい引用してるから。そうすると、趣味やら、いろいろなことが見えてくるから、やっぱり面白い。一度、先生と話して「いや、スミスは、やればやるほど。やらないと、これは分からないんじゃないかな？」っておっしゃったのは、その意味は僕はよく分かるし、そういう意味で役に立つという気がする。

有江 スミス本人の関心の程度が、蔵書の冊数に反映してるかどうかは分からないんだけど

も。その点で行くと、僕が面白いと思ったのは、イエズス会文献がやたら多いこと。12点あって、ケイムズ卿（Henry Home, Lord Kames）よりも多い。

水田 多いね。

高 イエズス会とか、アメリカ人はどうだとか、結局、human nature なのね。人間の生をどうとらえるか。これはスミスはすごいなって、僕は、いつ読んでも思う。キリストとか何とかじゃなくて、人間とは本当は何なのかっていうことを、彼ほど、この時代に突き詰めた者はいないような気がする。宗教もなにもかも抜いていって、それで動物と比べていくわけでしょう？ これは相当なもんですよ。

有江 同時代の自然科学、生物学への関心は、信じ難いくらいありますよね。フックの『顕微鏡図譜』³⁶まで読んでるし。

高 心理学もね。

深貝 逆に、これが入っていないというような特徴はありますか？

有江 一つは神学。例えば、サミュエル・クラーク（Samuel Clarke）が入っていない。

水田 そう。

有江 ヒュームの蔵書だと、キリスト教の教会史なんかが、幾つか入ってる。スミスの場合は、信仰復興運動とか、社会の中でキリスト教なり教会が、どういうことをやったのかというような、そういう関心になります。だから、神学的な

ものはほとんどない。

深貝 そうすると、自然神学は？

高 自然神学じゃないでしょう？

水田 田中正司のあれ（『アダム・スミスの自然神学』）は、めちゃくちゃなんだ。

有江 田中正司さんは、啓示神学だとまで言い切るけど、そんな極端な話はない。

水田 自分で作っちゃうんだ。

高 モラル・センチメントを読んだら、そのような主張はないものねえ。

深貝 少なくとも状況証拠として、支えがたいていいうことは言える。

小野塚 それとは逆に、スミスが自分の著作の中で、典拠を示さずに書いているところを、カタログを使うことによって、その典拠はこれだと推測できる可能性は、どれぐらいありますか？

深貝 それはカタログだけじゃ無理だけど、最近の電子テキストを使えば、例えばあるパラグラフで念頭に置いているのは誰か、を推測する手法は考えられる。つまり、そこで使われてるキーワードを何通りかチェックした上で、持っていた蔵書と対照する。相当手間のかかる作業だけれども、誰が書いたとか、ある程度の割り出しは可能かもしれない。

小野塚 なるほどね。やっぱりテキストまで降りないと駄目ですね。

深貝 その場合、単語だけじゃなくて、フレーズまで入れたほうがいい。

有江 アメリカでテキストマイニングが発達したのは、盗用への対策。学位論文の盗用を点検する。業者がアウトソーシングでやってる。

小野塚 もちろん英語の本をスミスが読んで、自分で英語で書いてるんだっいたらいいんだけど、フランス語やイタリア語や、場合によったら、ラテン語、ドイツ語のものを読んで、それを英語に翻訳して、自分の文章の中に埋め込んでる場合は？

深貝 そこは難しいでしょうね。今のテキスト解読のベースでは、できないと思う。

高 スミスって、典拠の指摘が実にいい加減だからね。それはここに書いてあるって、嘘ばっかりってところが、たくさんあるから、注意する必要がありますね。

水田 そうだね。

深貝 引用しながら作り変えるっていうのが、18世紀の人だから。

有江 それはそう思う。あの時代のエディンバラで説教をする人たちなんか、最初のお説教がパンフレットで出て、それを後で本の中に入れ込むとき、本当に同じものかと思うくらいに変えてしまうのが普通です。

小野塚 スミスは、引用するとき、必ずしも厳格でなかったり、あるいは、逆に、大切なことほど転記したことを明記しないような、そういう傾

向はありますか？

高 それはないと思います。『国富論』で思い出した。僕、*Lectures*³⁷⁾は本人が書いたものじゃないから、全く信頼しないから、知りませんが。その二つに関する限り、ないですよ。

法律について、だいぶ調べたけど、かなりいい加減です。ただ、いい加減なんだけど、専門家に聞くと、「法律なんてのは、典拠はいくつもあるから、1つ引用元を探すことの意味はないんだ」ってことらしい。

水田博士のスミス研究全般について

有江 カタログから見た、水田先生のスミス研究全般について。随分、漠然とした問いかけですが、『水田カタログ』の意義を、ご自身は、では、どう思われるか。残された課題はあるか。」

水田 知らない。そんなこと言われたって。くたびれましたっていうことだね。

有江 「したくても、できなかったことはあるか。」

水田 カタログじゃないけど、さっきも言ったように、マケンジーなんか、新聞や何か出してるでしょう。スミスの周辺をもう少し調べられなかったかなって感じはします。

有江 僕からの質問は『水田カタログ』の作成と、水田先生のスミス研究（例えば、階級闘争視点の持ち込み）は、どのように関連していたのか、あるいはしていなかったのか。」

水田 最近、発見したのは、フィリップスの『スミス伝』のビブリオに、ミークがちゃんと出

てる。*Scottish Contribution to Marxist Sociology*³⁸⁾。ところが、グラスゴー版『国富論』ではミークが強調したいマルクス主義のところだけを抜いて、ビブリオグラフに入れてる。だから、それは、やっぱりフィリップスンたちにとってはショックだったんじゃないかなと思います。僕のあれ³⁹⁾は日本人が読むと分かるのかもしれないけど、誠に拙劣でね。だから、そういう観点をイギリス人には伝えられなかったかもしれない。だけど、オランダとドイツとイタリアからは、ちゃんと評価が来たから。受け取る場所では受け取って、そして広まったんじゃないか。

有江 1990年の（スミス没後）200年のときの名古屋でのシンポジウム⁴⁰⁾の印象も、そんな感じですね。経済的な視点は、イギリス人やフランス人の報告からは、あまり出てこなかった。ドイツから東の方の人たちの報告やら書くものには、われわれが聞いても読んでも納得できるような共通の視点というのはあったように思うんですが。

フィリップスは、僕がエディンバラに行った際に彼も都合がつけば、研究室でとか飯食いながら話したときに、彼が『ヒューム』の中に確か、「civilizing powers of commerce」という言葉を使って⁴¹⁾、僕が「これ、マルクスの the great civilizing influence of capital のもじりじゃないか」って言いました。それで「索引にマルクスが出てこないのは、どうしてだ？」って聞いた覚えがあります。「自分が作ったんじゃないから」というのが返事でしたが、やっぱりフィリップスンの場合、ヒュームとスミスに関しては、シャー（Richard B. Sher）なんかの非常に人文的な評価ではなくて、何らかの形で、経済的、あるいは commerce の視点といったものを意識をしたんじゃないかと思うんです。

水田 そうですね。

有江 そこに水田さんがずっとやられたことが、ある程度、影響を与えたんじゃないかと推測してるんですが。

水田 いつか忘れたけど、フィリップソンの書いたものについて、「これは Civilic Humanism の破産だ」って言った覚えがある。そのことを坂本（達哉）君がフィリップソンに伝えた。そうしたら、「それは当たってるかもしれないな」って言ったとは聞きましたけれども。

それで、ワツェック（Norbert Waszek）は、日本に来て、目が覚めたんですね。彼とは経済学史の会議で会って「あなたの専攻はなんですか？」と聞いたら、「ザインでございます」って言われて、面食らったことがあります。彼が、そういう経済的な視点を持ち込むことに、最初に気が付いたのかもしれない。彼はポーランド人で、第二次大戦の最中から後、そういう東の国から来た人が、いろんな仕事をしてますが、そのうちの1人です。今、パリ大学にいて、日本人をいろいろと世話してくれるようで、みんな喜んでる。

有江 ワツェックはミークのゼミじゃなかった？ 坂本さんが彼を呼んだときに直接話したことがあって、「おまえは典型的なマルクス主義者に見える」っていうふうに言ったら、「そうか、実はミークのゼミだったんだ」みたいな答えで、否定はしてなかった。だから、今の話と符号するなと思いました。

ギリシア・ローマの古典について

有江 話題が、カタログから離れてしまいましたので戻ります。次は、高橋さんの質問。「『1781年カタログ』に収録されている、ギリシ

ア・ローマの古典籍の多くが、グラスゴーで出版されていることに気がきました。そこでお聞きしたいのは、18世紀のグラスゴーでの西洋古典学の教育、研究および出版事情の実体は、どのようなものであったのかということです。グラスゴーで、ギリシア・ローマの古典が多数刊行された背景には、どのような事情が存在していたのでしょうか。」

水田 この「多数」っていうのは、どういう意味？

小島 正確な数は忘れましたが、（『水田カタログ』を）言語で並べると、ギリシア語、イタリア語が、こんなにあるんだ、という印象を持ちました。

有江 あの頃、ネオ・ストイシズム、キケロへの関心は、猛烈に強かったですね。

水田 それはそうですね。さっき言った（13頁）アカデミーを作ったあの兄弟（Foulis brothers）ね。あれは出版もしてたはずだから、当然だとは思います。

有江 それから、いまの質問と関わりますが、「スミスのラテン語学習歴。具体的には何歳くらいまで、どのような教育機関でラテン語を学んでいたのか。」

水田 それは、子供の頃から証拠がある。これはよく知られてる話で、グラマースクールで学んでいる。確か、彼はグラスゴー大学に入るときに、ラテン語ができていて、1学年免除されるようになったのかな。14歳か13歳？

有江 「水田先生の目録にある Cicero の項目を拝見すると、スミスはさまざまな論評をキケロに関して述べています。一体、スミスは、キケロに代表される、西洋古典に対する関心は、どの程度のものであったのでしょうか。」

高 キケロを読むために、みんなラテン語を勉強してたんじゃない？ いいか悪いかは別にして。キケロがどんどん広がったのは、別の話でしょうけど。

有江 自然に読まざるを得ない。

水田 「どの程度のもの」って、キケロしかないんだよ。その次のネオ・ストイシズムは、さっき言ったように、リップシウス。僕が一度、スコットランドの大学図書館のリップシウスを見たら、やっぱり全部ちゃんとそろえてる。どこの図書館もね。

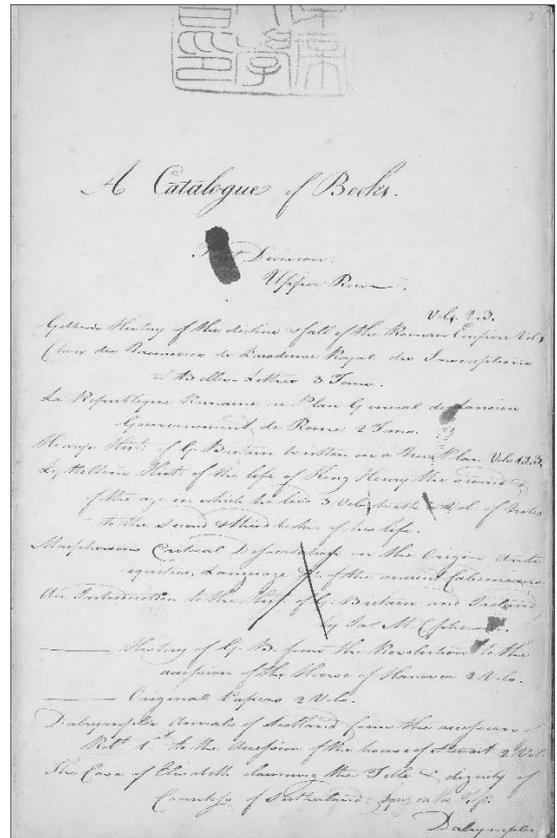
有江 教会の側からすると、そんな異教的な、しかも、イエスより前の時代で、そこに何か文明的なものがあつたっていうのは、あんまり言いたくはなかったはずなんですけどね。

高 でも、セクトじゃないから。やっぱり全部ないと、具合悪かったんじゃないの？ そういう意味で、聖書だって、もともとギリシア語で、Jesus の言葉からずっとあるわけだから。

有江 そうですね。

『1781年カタログ』に戻ります。「ところどころ複数の書物にまたがるような形で、大きく×印が見えます。」

水田 これが全然分かんない。



『1781年カタログ』（冒頭）

74 CATALOGUE OF ADAM SMITH'S LIBRARY	
Bonar	the age in which he lived. 3 Vols, With a Vol of Notes to the Second & Third books of his life.
	†Macphersons Critical Dissertation on the Origin Antiquities, Language & ^{ns} , of the ancient Caledonians.
	†An Introduction to the Hist: of G: Britain and Ireland by Ja ^s M. cpherson.
p. 108	History of G. B. from the Revolution to the accession of the House of Hanover 2 Vols.
	Original Papers 2 Vols.
p. 53	Dalrymple's Annals of Scotland from the accession of Rob ^t 1 st to the Accession of the house of Stewart 2 Vols.
p. 181	The Case of Elisabeth claiming the Title & dignity of Countess of Sutherland.
	Lying on the top
Sheet 3 p. 53	Dalrymple's Memoires concerning the provincial Councils of the Scots Clergy.
	Memoires of G. B. & Ireland from the Dissolution of the last P. of Char. 2. until the Sea Battle of La Hogue by Sir In ^o Dalrymple 2 Vols.
	The New Natura Brevium, with Sir Mattheu Halis Commentary.
p. 13	Arnots History of Edinburgh. Removed to Locked Press.
p. 29 (2)	Blackston's Commentaries on the Laws of England 4 Vols.
p. 38	Burn's Ecclesiastical Law 2 Vols.
p. 97	Kaim's Sketches of the History of Man 2 Vols. Universal Merchant.
	†Considerations on the Trade & finances of this kingdom and on the measures of Administration.
p. 90	Humes Essays & Treatises on Several Subjects. Vol 3
	†Political Essays concerning the present State of the British Empire.
	†Smith's Enquiry into the Nature and Causes of the Wealth of Nations 2 Vols.
	†Another Coppy ^[sic] of the Same.
	†Steuarts Enquiry into the principles of Political Oeconomy 2 Vols.

『矢内原カタログ』（74頁）

有江 「該当部分の書籍を『矢内原カタログ』で確認すると、書名の冒頭に十字架マーク (+) が付けられ、脚注に out とあります。この十字架マークは、書誌学では物故者に示す表示記号ということですが、著者が亡くなっても書物は残るわけですので、×印を付けて、蔵書リストから除去する必要はないと思います。なにゆえ『1781年カタログ』では、そのような措置が行われたのでしょうか、そのあたりの背景なり事情なりについて、知りたく存じます。」という質問です。

水田 これ、インクで時代は分からないかしら？

有江 後の人が書いた可能性もある。

小島 正確に言うと、ただの×と、三角が2つくっついたような形のものがあります。2種類あるのです。

深貝 こういう派手な×か。

小野塚 確かに、そういう×の付け方もありますよね。

深貝 本の並べ替えをしようとしたか、そういう他愛ない話かもしれない。持ってどこかに行くとか。

水田 どこかに移したっていうことが、一つあると思うけれど。

福田 棚を変えた。

小島 順番を入れ替えたとか。もしかすると三角がそうかもしれません。

深貝 つまり、人物評価といった深刻な意味は持つとは限らない。

小島 ×のインクは、目録本文のインクとは違ったと思います。

深貝 ×のものは、どこかにあるんですか？ それともスミスが持ってた？ あるいは、今のところ見当たらない？

小島 『矢内原カタログ』では、out と記されている。全部は対照してませんが、今ではないものが多いと思います。

深貝 日本にもって来たあと、×付けるはずはないから、それより昔に取り外したのか。

小島 ただ、現在全てないかというところ、そうでもない。あるものもある。まだ、全部は洗ってないので、少しお待ちください。

有江 そうすることで、『1781年カタログ』は面白いかもしれないですね。東大にしかないんだから。

高 そもそも何のために作ったのが、全く見当たらないから、僕は全然食指が動かなかったな。ただ、ここにしかないのは事実だから、それを、どう生かすか。

深貝 その筆記体の字は誰のですか？

小島 これはプロの書写でしょうね。

水田 そうでしょうね。

高 スミスの原稿は、みんなそうですからね。

深貝 スミスが愛用していた筆記工は何人いたかとか。そこまでいくと、何か分かるかもしれない。

高 この時点だと、大学とは無関係だから、意外と難しいかもよ。なんで1781年なのだろう。

『水田文庫』について

小島 この前、水田文庫の展示を見させていただきました⁴²⁾。そこで思ったのですが、あれだけの蔵書を構築する中で、スミスの旧蔵書は買われなかったのですか？

水田 その頃は、あんまりマーケットに出でこなかったんですよ。

小島 そうか。出て来るのはもっと後なんですな。

水田 どうもそうらしいね。グラスゴー留学のときに、ファーガスン（Adam Ferguson）のものは買ってるんです。だからスミスが出てきたら、当然、買ってると思いますけどね。

それから、もう一つは、そういう流通過程にタッチしなかったっていうこともあるんですよ。もう少し本気になれば、そういうカタログを集めてやることはできたんです。ファーガスンがグラスゴーの町に出たら、これがあったよっていう、そういう話ですからね。そうしたら、ポンドの半分だったっけな、普通はそんな値段で売られていた。だから、探せばあったんでしょうね。

有江 1990年代だと、街の古本屋でも、結構古い革装の本があった。僕自身エディンバラを回ったときに、一番古いものでは1696年のものなんかが、店舗の中ではなくて、雨がかかるような外の棚にあったので、安いこともあってとにかく買いました。

水田 だって、『ブリタニカ』の初版なんか、おまえ、どうして、こんなもん買うんだ？っていうことになりますから。

小島 そうですね。普通に使う人だったら、百科事典の初版がなぜ要るんだ？となりますよ。

有江 今となっては、そういう街の古本屋さんにはもう何もなくなってしまいました。

小島 どうやってお金を工面をして、あれだけの蔵書を構築されたのですか？

水田 みんなそう言うけど、女房が「これは家計に関わりなかった」と言ってるから。

高 ご自分の所得だけです。あとは奥さんの収入で、食べてたはずだから。

有江 自分の収入は、全部自分が好きに使えたっていうことですか？

水田 そうです。それで、住んでいた公務員宿舍って、要するに、家賃が安いわけですよ。そのおかげだということも言われた。

小島 東大の脇村（義太郎）先生は、本が必要になると、山の木を売って、本をそろえたって言

ってますが。先生は、木を売ったりとか、そういうわけではなかったわけですね。

水田 そう。だから、やっぱり稼いだんでしょ
うね（笑）。

カタログ作成の意図について

福田 カタログについて、想定した使い方は
ありますか？ 図書館学的に言うと、解説があ
るところなど、すごくユニークだと思います。

最近出たもので、『福田徳三書誌』という、巨
大な本があります。金沢幾子という、一橋大学の
図書館員が編纂したもので、すごい書誌なんで
すけれども、彼女は「読める書誌を目指しました」
というのです。つまり、弟子筋のことを調べたり
とか、すごく緻密なことをやっている。先生のカ
タログも、すごく特色があると思うんですけれ
ども、ある特定の使い方を念頭に置いた、とい
うことはありますか？

水田 全然ない。全然ないっていうのは、つま
り、福田徳三は、本を買うとき、自分のイメージ
で買ってたと思う。でも、僕はスミスをやって、
そんなの何もないから、ただスミス関係を集め
たら、像が出来上がるだろうというくらいであ
って、これを唯物史観の資料にしようとは思っ
てなかった。むしろ、使い方を想定するようなこ
とは、ないほうが良いと思ってた。

福田 ツールとしてでよい、ということですか。

水田 そう。これからやってくださいよって
いうつもりで作った。

福田 先生の文章、解説も少し入っています

が。

水田 なるべく避けるということで。

有江 そう言われると困ります。後で研究者
が使えるように、しかも思想というものが、やは
り越境する形で変化しながら、広がっていき
つてというようなことが分かるように、このカ
タログは作られている、なんて書いてしまっ
たので⁴³⁾。

水田 「分かるように」は困る。分かるやつが
読まなきゃ駄目だ。

有江 作る時に何も考えてないと言われると、
大変困っちゃうんですよ。

高 結局、考えてないほうが、かえって広が
るね。

有江 ノートンが作ったヒュームのカタロ
グ⁴⁴⁾なんか、単に図書館のカードを並べてある
だけだから。

水田 あれは、ものすごく禁欲してるよね。

有江 『水田カタログ』は、それと大きく違
って、福田さんも言われたように、非常に積極
的なものだから、その特色を出そうと、自覚
的にやっただけに違いないと考えて、僕は書
いたんです。

高 でも、スミスはここでこう書いてる
って、メンションを入れているのは、やはり、
スミス研究者にとって、すごく役に立つ。

水田 ノートンが序文で言ってるのは、ヒ
ュ

ームが *A Treatise of Human Nature* を書いていたとき、ホブズと同じタイトルの本があったのではないかって。それでエディンバラの図書館のカタログを見ると、ヒュームがそれを書いている時点で、図書館に、ホブズが 1640 年に出した最初の本 (*The Elements of Law*) は、エディンバラにあったことがわかった。ヒュームが見たという証拠はないんだけど、見ることはできたはずだということまでは追跡できる。

それ(カタログ)を見て、館長とか貴重書室長のヒルヤード(7頁)だけにコピー取ってくれて言ったら、「これは開けない」って言われた。「これが分かったからいいじゃないか」っていうから、「分かったんじゃない。こういうふうに

開けないっていうところまで分からなきゃ困る」って。結局、それは写真に撮ってくれて、開けないっていうのを証明して、British Library のもののコピーを撮ってくれた。

だから、そのところではノートンが期待してたように、ヒュームがホブズをちゃんと見て書いたんだろうっていうことが分かった。

有江 なるほど。

他にはいかがでしょうか？ ちょうど予定の時間になりましたので、聞き取りは、これで終了させていただきます。どうもありがとうございました。

(了)

水田洋(みづた ひろし) 博士略歴

1919 年生まれ。1941 年、東京商科大学卒業。1942 年、財団法人東亜研究所入所、同年、陸軍属第 16 軍政監部付(ジャワ島勤務)。1945 年、連合国に対して無条件降伏、捕虜、その後第二軍参謀部勤務(スラウェシ島)。1946 年、帰国復員、東京産業大学(東京商科大学が戦時中改名)特別研究生。1949 年、名古屋大学法経学部助教授。1954 年 8 月、イギリスに留学(1956 年 4 月まで。1954 年 12 月までは British Council Scholar)。1958 年、名古屋大学経済学部教授。1960 年、経済学博士号(旧制)取得(京都大学)。1966 年、名古屋大学経済学部長(1968 年 10 月まで)。1983 年、名古屋大学経済学部退職、名古屋大学名誉教授、名城大学商学部教授。1993 年、名城大学商学部定年退職。2012 年、名古屋大学高等研究員アカデミー会員。

表彰 第 1 回アダム・スミス賞(1965 年)、日本学士院会員(1998 年)、国際 18 世紀スコットランド学会生涯業績賞(2001 年)など。

著書 『近代人の形成』(1954 年)、『社会主義思想史』(1958 年、水田珠枝と共著)、『マルクス主義入門』(1966 年)、『アダム・スミス研究』(1968 年)、『思想の国際転位』(2000 年)、『新稿社会思想小史』(2006 年)、『アダム・スミス論集』(2009 年)他、多数。翻訳にホブズ『リヴァイアサン』、スミス『国富論』『道徳感情論』『法学講義』他。

1) 「特集 アダム・スミス文庫とデジタルアーカイブ」『東京大学経済学部資料室年報』4, pp.2-15, 2014.3.

2) *A Catalogue of the Library of Adam Smith: Author of the "Moral Sentiments" and "The Wealth of Nations"*, 2nd ed., London: Macmillan, 1932.

3) *Adam Smith's Library: a Supplement to Bonar's Catalogue with a Checklist of the Whole Library*, Cambridge University Press, 1967.

4) *Adam Smith's Library: a Catalogue*, Oxford University Press, 2000.

5) 水田洋「アダム・スミスの蔵書(一)(二)」『商学論集』25(1), pp.113-133, 25(3), pp.198-231, 1956.5,11.

- 6) *Economic Journal* には、ヒッグス (Henry Higgs) によるボナー目録第 2 版の書評 (Vol.42, No.168, pp.625-627, Dec.1932) や、ボナー自身による補遺 (Vol.44, No.174, p.349, June 1934; Vol.46, No.181, pp.178-183, March 1936) が掲載されていた。
- 7) 有江大介「書評、あるいは「水田洋『アダム・スミス蔵書目録』をめぐって」『日本 18 世紀学会年報』17, pp.70-75, 2002.6.
- 8) The 10th International Society for Eighteenth-Century Studies (ISECS) Congress at University College Dublin, 25-31 July 1999.
- 9) *A Catalogue of Books Belonging to Adam Smith, Esqr. 1781.*
- 10) *A Full and Detailed Catalogue of Books which belonged to Adam Smith : Now in the Possession of the Faculty of Economics, University of Tokyo, with Notes and Explanations*, Tokyo: Iwanami Shoten, 1951.
- 11) スミスの蔵書は、いとこのデイヴィッド・ダグラス (David Douglas) が受け継ぎ、さらに、その娘であるカニンガム夫人とバナマン夫人が等分に分けてそれぞれ受け継いだ。水田洋「アダム・スミスの蔵書」『一橋大学社会科学古典資料センター Study Series』19, p. 1-26, 1989.3 (p. 11)
- 12) 前掲注 11 水田 1989, p.11、水田洋「アダム・スミスの蔵書をめぐって」『東海地区大学図書館協議会誌』35, pp.2-15, 1990.12 (p.9) など。
- 13) Mizuta, *op.cit.*, 1967, p.xii.
- 14) 前掲注 11、水田 1989、p.18。
- 15) Scott, William Robert, *Adam Smith as Student and Professor*, Glasgow: Jackson, 1937.
- 16) 前掲注 11、水田 1989、p.14。
- 17) 「編集のあとで」『象』77, pp.115-116 (p.116)。
- 18) Mizuta, *op.cit.*, 2000, p.45 “Cappe, Newcome, 1733-1800. A sermon preached on the thirteenth of December the late day of National Humiliation, to a congregation of Protestant-Dissenters, in Saint-Saviour-Gate, York, and published at the request of the audience, by Newcome Cappe. York: Printed by A. Ward; and sold by J. Johnson...London; and by the book-sellers in York, 1676[1776].”
- 19) Mizuta, *op.cit.*, p.45 “Listed as item 761 in Catalogue 246 of Thomas Godfrey, York, Autumn 1952, advance overseas issue.”
- 20) 名古屋大学中央図書館、請求記号 Nagai|287。
- 21) Gordon, George, *The History of Our National Debts and Taxes from the Year MDCLXXXVIII to the Present Year MDCCCLI*, London: printed for M. Cooper...Professor T. Ohfuchi of Nihon University (Tokyo).
- 22) 「日本大学法学部創設 125 周年記念特別展示会」平成 26 年 10 月 1 日 (水) ~11 月 3 日 (月)。
- 23) 大河内暁男「アダム・スミスゆかりの古典籍入手顛末」『図書館の窓—東京大学附属図書館報』40(5), pp.67-71, 2001.10.
- 24) 現在、これらの書籍についてはエディンバラ大学図書館が所蔵していることが確認された。
- 25) 立岡安明「大学罹災の日を顧みて」『経友』5, pp.46-57, 1924.3.
- 26) Mizuta, *op.cit.*, 2000, p.xvii “A catalogue of books newly imported from abroad : containing the scarcest editions of almost all the Greek and Roman authors; and likewise many of the best philological, mathematical, French, Italian and Spanish authors....1741.”
- 27) 名古屋大学レクチャー2014「人類生存のための科学と精神 : 感染症の挑戦と基本的人権のために」(2014年12月6日(土) 13:00-18:00) <http://www.aip.nagoya-u.ac.jp/event/detail/0001797.html> (参照 2017-1-25)
- 28) *Iusti Lipsi Politicorum, sive, Civilis doctrinae libri sex : qui ad principatum maximè spectant, additae notae auctiores, tum & de vna religione liber ; omnia postremò auctor recensuit.* Antverpiæ : Ex officina Plantiniana, apud Ioannem Moretum , 1599.
- 29) 前掲注 8、水田 1989、p.9。
- 30) 前掲注 8、水田 1989、p.18。
- 31) 有江大介「18 世紀スコットランド学会/国際アダム・スミス学会合同大会 (2013 年 7 月 3 日-6 日) に参加して」『経済学史研究』56(1), pp.117-121, 2014.7
- 32) Ross, Ian Simpson, *The Life of Adam Smith*, 2nd ed., Oxford University Press, 2010.
- 33) *Ibid.*, p.71.
- 34) Review of the Essays on Philosophical Subjects, *Monthly review*, Vol.22, pp.57-68, 1797.
- 35) Mizuta Hiroshi, *Adam Smith : Critical Responses*, Routledge, 2000, vol.1, p.208.
- 36) Mizuta, *op.cit.*, 2000, p.123, no.809 “Hook, Robert. Micrographia: or some physiological descriptions of minute bodies made by magnifying glasses. With observations and inquiries thereupon. London, printed by Jo. Martyn, and Ja. Allestry....1665.”
- 37) *Lectures on Jurisprudence*, edited by R.L. Meek, D.D. Raphael, P.G. Stein (The Glasgow Edition of the Works and Correspondence of Adam Smith 5) 1978.
- 38) Meek, R.L. ‘The Scottish Contribution to Marxist Sociology’ in R.L.Meek, *Economics and Ideology and Other Essays* (London, 1967), pp.34-50. Phillipson, Nicholas, *Adam Smith : an Enlightened Life*, New Haven: Yale University Press, 2010, p.318.
- 39) グラスゴー版全集の associate volume として刊行された論文集に収録された論文のことだと思われる。Mizuta Hiroshi, “Moral Philosophy and Civil Society”, in *Essays on Adam Smith*, Edited by Andrew S. Skinner

and Thomas Wilson, pp.114-131, Clarendon Press, 1975.

⁴⁰⁾ 「アダム・スミス没後 200 年-名古屋国際シンポジウム」中京大学 1990 年 4 月 12-15 日.

⁴¹⁾ Phillipson, Nicholas, *David Hume : the Philosopher as Historian*, Yale University Press, 2012, p.11.

⁴²⁾ Nakai Eriko ed., *The Mizuta Library of Rare Books in the History of European Social Thought : a Catalogue of the Collection Held at Nagoya University Library*, Edition Synapse, 2014. この座談会の直前に、主要なコレクションの展示が行われ、併せて、『名古屋大学附属図書館蔵 水田文庫貴重書目録』刊行記念講演が開催された（2014 年 12 月 7 日、名古屋大学中央図書館 5 階大会議室）。

⁴³⁾ 前掲注 7。

⁴⁴⁾ Norton, David Fate and Norton, Mary J., *The David Hume Library*, Edinburgh Bibliographical Society in association with the National Library of Scotland, 1996.